

日本版EHR フィールド3（共通診察券）

「共通診察券を活用した 健康情報活用基盤構築の実証実験」 状況報告

しまね健康情報活用推進コンソーシアム

1. 前回委員会からの更新点

実施体制 ※前回から変更

○ プロジェクトリーダー：**社団法人出雲医師会 児玉和夫**

参加団体種別	参加団体名	情報開示施設数
病院 (3施設)	島根県立中央病院、島根大学医学部附属病院、大田市立病院	1
診療所 (10施設)	知井宮堀江医院、児玉医院、すぎうら医院、遠藤クリニック、角医院、ふじのクリニック、小野医院、うめがえ内科クリニック、やまうち内科クリニック、須田医院	9
薬局 (20施設)	しまね薬局おおだ店、ワタキュー薬局おおだ店、あんず薬局、いちご調剤薬局北本町支店、すずらん薬局、知井宮ふれあい薬局、調剤薬局くすりのファミリア、つくし薬局、つくし薬局小山店、なかの薬局、服部薬局出雲支店、ファーマシィすこやか薬局、ファーマシィまごころ薬局、フラワー薬局、フラワー薬局平田店、平安堂薬局渡橋店、まきの薬局、みどり薬局、もも薬局、やまだ薬局	5
消防 (1施設)	出雲市消防本部	1
自治体	出雲市、大田市、斐川町 ※10月1日斐川町は出雲市と合併	-

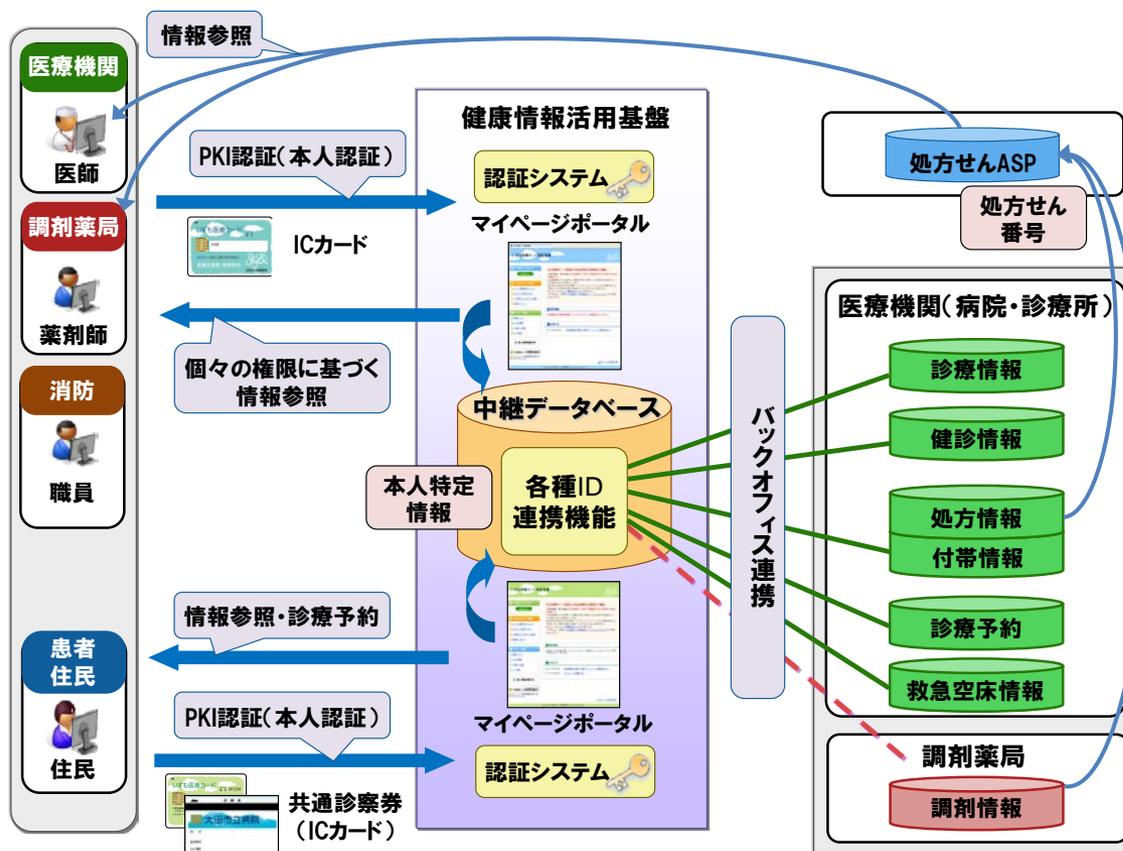
○ 協力機関・団体：**[社団法人 出雲医師会、社団法人 大田市医師会、島根県薬剤師会(出雲・簸川支部)、島根県薬剤師会(大田支部)、富士通株式会社、株式会社テクノプロジェクト]**

○ 想定されるEHR運営の主体：**しまね健康情報活用推進コンソーシアム**

2. 島根地域の特長

概要

- 地域全体で、共通診察券（仮称）を通じた、ワンストップの医療サービスを実現するため、
 - ①個人の健康情報（特定健診情報）、診療情報、調剤情報などを関係者間で登録・共有するとともに、住民が診療予約をできる。
 - ②救急医療機関が、地域の医療機関の空床情報を参照できる環境を構築する。
- ※厚生労働省「社会保障カード（仮称）実証事業」の成果を活用



2. 島根地域の特長

総論

①共通診察券

ICカードを患者の情報への医療機関をまたぐアクセスキーとして利用することにより、共通診察券を実現しています。中継データベースを介して情報連携先に都度照会する仕組みにより、ICカードはPKIによる個人認証に用いるのみとし、個人情報や内部に格納していません。

本事業では、共通診察券により以下の各サービスが利用できます。

ア) 診療情報、健診情報閲覧サービス

患者自ら把握・管理が望まれる情報を、自宅でいつでも、また医師と一緒に医療機関で閲覧可能とするため、診療情報（検体検査結果、処方履歴）及び健診情報の閲覧を可能としています。

イ) 診療予約サービス

受診に係る患者の利便性を高めるため、診療予約サービスを可能としています。

②救急空床

救急搬送の円滑化、迅速化のため、消防が医療機関の救急空床情報を得られる仕組みを構築しています。救急関係者はICカードによりPKI認証を行った上でサービスを利用します。

③調剤薬局への連携対応

地域の医療機関と調剤薬局との間の情報連携の円滑化・効率化のため、処方情報及び調剤結果を相互に参照できるサービスを可能としています。

2. 島根地域の特長

共通診察券交付状況(1月20日現在)

本事業での共通診察券交付は当初の予定枚数に達しています。
厚生労働省「社会保障カード実証事業」で交付した1481枚に加え、新規に761枚交付しました。
参加医療機関での積極的な推進と、地域企業へのプロモーションを行っております。
今後も、出雲・大田の両医療圏で交付を広げるよう活動中です。

カード種別			予定枚数	実績枚数	摘要
いずも医療カード	医療従事者・管理者用		うち、社保カード事業にて交付したもの	193枚	193枚
			本業務において新たに交付するもの	50枚前後を想定	45枚
	一般用		うち、社保カード事業にて交付したもの	1,288枚	1,288枚
			本業務において新たに交付するもの	数十枚を想定	216枚
ICチップ付 大田市立病院診察券			本業務において新たに交付するもの	500枚	500枚
合 計			2,000枚程度	2,242枚	

システム利用状況(1月20日現在)

利用パターン	利用方法	件数
自宅等からの利用	自宅等のPCからICカード認証により診療情報等参照	780
医療機関での利用	医療機関にてICカード認証により医師等参照	132
薬局での利用	薬局にてICカード認証により薬剤師参照	198
処方情報電子化	医療機関から処方情報、付帯情報の送信	61

2. 島根地域の特長

○救急空床情報システム検証

救急空床のシステム企画については、関係機関との調整に時間が掛かり、具体的な着手が遅れていました。当初一部消防機関との連携を計画しておりましたが、検討を進める中で島根県全体で、医療再生計画とも絡めて検討することとなりました。そのためには、医療対策課や消防防災課を交え本格的な体制作り、意識付けが必要となった事が遅れた要因です。

現在では、医療再生計画プロジェクトも開始され、本実証実験も合わせた検討体制を整備しました。

(島根県消防防災課、出雲市消防本部、島根県立中央病院、富士通、テクノプロジェクト)

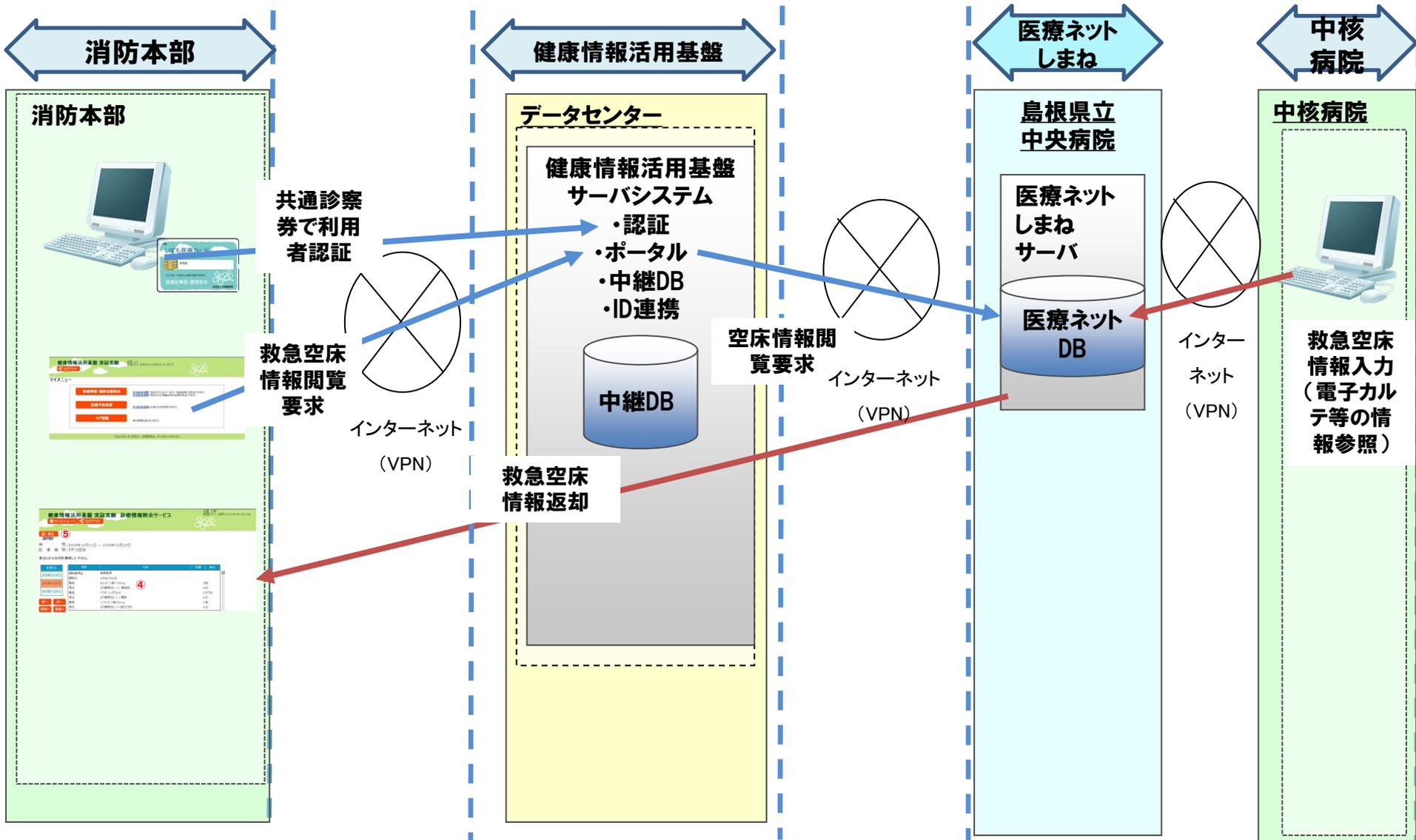
消防本部で共通診察券で認証し、空床情報を参照するシステム化のための協議を行いシステム構築・検証を実施しています。

システム概要	
1. 空床情報の登録	救急病院の空床情報を病院から登録。 登録においては電子カルテ情報等を参照。
2. 空床情報の参照	消防本部にて空床情報を参照。 出雲市消防本部では「本部判断」運用のため、本部にて搬送先を決定。
空床情報内容	
1. 当直医情報	
2. 診療科別空床情報	
3. ICU、NICU空床情報	
4. 手術室の使用状況	
5. 心臓カテーテル検査の予約状況	
6. 血管造影検査の予約状況	
検証内容	
1. 機能仕様の検証	
2. 空床情報確認の効果、課題の洗い出し	

2. 島根地域の特長

データの流れ 
機能の流れ 

○データフロー ～救急空床情報の閲覧・登録～



2. 島根地域の特長

調剤薬局連携状況

調剤レセコンベンダーのうち、当初処方情報の取り込み連携可能なのは1社のみでしたが、調整によりもう1社も連携可能となりました。

これは、二次元シンボル形式(QRCSV)を読み込める調剤レセコンに対し、処方せんASPからダウンロードされるHL7 CDA R2形式の処方情報を、二次元シンボル形式(QRCSV)に変換し、調剤レセコンへファイル転送する仕組みを処方せんASP端末上に作成することにより連携を実現しています。

これにより、参加薬局20のうち、処方情報の取り込みが可能となったのは、当初の5薬局から12薬局と増えております。

それ以外の薬局については、当該患者の診療情報(付帯情報)を参照してもらうことで、本実証実験に参加して頂いています。

連携の 類型	利用できる医薬連携サービス			実証薬局 数
	ICカードをアクセス キーとし、患者の付帯 情報を閲覧可能	ASPサーバを介して電子化 処方情報が調剤レセコン から取り込める	調剤結果を処方せん ASPサーバにフィード バックできる	
パターンA	○	○	○	5か所
パターンB	○	○	×	7か所
パターンC	○	×	×	8か所
合計				20か所

3. システム稼働状況

○ 稼働開始までの日程

項目	内容		
診療予約、診療情報閲覧、健診情報閲覧	システム構築	2011年9月19日システムの構築及び全体テスト完了	
	実証開始	2011年10月3日	
処方情報の電子化	システム構築	2011年11月30日EMシステムズの調剤薬局構築完了、2011年12月28日その他の調剤薬局構築完了	
	実証開始	2011年12月1日	
救急空床システム	システム構築	2012年1月26日構築完了(予定)	
	実証開始	2012年1月27日(予定)	
会議	内容	検討・指摘事項等	
会議 (協議会、説明会)	7月5日 コンソーシアム会議	キックオフ会議、事業概要説明	コンソ名称、会議体の決定
	8月9日出雲WG	処方情報電子化の運用、仕様の検討	引換票の運用、薬局に開示する情報範囲、患者への同意
	8月22日出雲WG	薬局向け参加者募集説明	調剤レセコンメーカーごとの運用方法
	8月26日出雲WG	診療情報、健診情報閲覧の運用確認	医療機関での運用方法
	9月1日大田WG	診療情報、健診情報閲覧の運用確認 処方情報電子化の運用説明	薬局で患者から処方以外の問合せ運用
	11月2日 コンソーシアム会議	状況報告、今後の進め方等	処方情報の事前送信と患者メリット 救急空床の進め方
	11月22日大田WG	今後の事業についての検討	地域医療再生事業との関連
	11月28日出雲WG	薬局向け処方情報電子化説明	患者への同意
	12月2日大田WG	今後の事業についての検討	実施項目優先順位
	12月13日 コンソーシアム会議	今後の事業についての検討、利用促進検討	実施項目優先順位、利用促進方法
12月14日大田WG	薬局向け処方情報電子化説明	薬局に開示する情報範囲	

3. システム稼働状況

○ 検証方法と実証状況

検証実施内容		実施方法	実証状況
(1)	共通診察券を活用した共同利用型健康情報活用基盤の機能に関する検証	地域連携(地域拡大を含む)における共通診察券の考え方を検討した上で、健康情報活用基盤を構築し、フィールドでの実際の利用を通して、情報セキュリティ、ユーザビリティ、相互連携性といった観点から機能を検証する。	10/3稼働開始 検証中
(2)	共通診察券を活用した医療・健康関連アプリケーションに関する検証	以下の調査手法により、多面的な検証・評価を行う。 【サーバログの分析】 サーバログの集計・データ化を通じて検証を行う。	10/3稼働開始 検証中
(3)	救急医療現場における情報連携に関する検証	【ヒアリング】 調査客体(医療機関、行政、調剤薬局)に対するヒアリング調査を実施する。実査にあたってはヒアリングシートをあらかじめ用意する。	1/27稼働開始 検証中
(4)	地方公共団体や医療機関等が保持している情報と健康情報活用基盤との情報連携に関する検証	【アンケート】 カード利用者(住民)に対する郵送配布・郵送回収方式のアンケート調査を実施する。	10/3稼働開始 検証中
(5)	処方・調剤情報に関する検証	調査票の発送は、サーバから得られる利用履歴に基づき、実証実験期間内に一度でもいずれかのサービスを利用した利用者全数に対して行うものとし、現時点での発送数100~200程度を見込む。	10/3稼働開始 検証中
(6)	処方情報の電子化に関する検証	【その他】 事務フローの分析(省力化調査)、医療機関等の保有する統計の収集・分析、文献調査等を想定している。島根県保健医療計画をはじめ、医療・健康関係の市町計画などの収集・調査を想定している。	12/1稼働開始 検証中
(7)	共同利用型健康情報活用基盤の普及に向けたID体系等に関する検討	政府における検討を踏まえ、利用者・医療機関・薬局へのID付番の考え方を検討する。 また、健康情報活用基盤を核として利用者IDと共通診察券のヒモ付けを行う方法を検討する。	検討中

3. システム稼働状況

○ 参加者に対する周知・広報方法

No.	項目	状況
1	プレスリリース	2011年11月30日 実施
2	関連企業等へのプロモーションによる参加者拡大	1月～実施中
3	DM発送による利用促進	1月発送予定
4	一部医療機関でのキャンペーンサービスによる利用促進	1月～実施中

医療機関・薬局で患者情報共有

島根でICカード実験

富士通や社団法人出雲医師会などは1日、患者へのた診療を提供するとも薬の処方状況を医療機関や調剤薬局間で共有する実証実験を島根県内で始めた。島根県内の医療機関11カ

富士通や社団法人出雲医師会などに見られる。患者により適した診療を提供するとも薬の副作用のリスクを減らす効果を見込む。

患者が医療機関で無償配布されたICカードを診療所に持って行けば、診療でICチップ入りカードする医師はそれまでの検査「いずも医療カード」を無償で受け取る。このカード

富士通・出雲医師会など

を別の医療機関や調剤薬局に持って行く医師や薬剤師は患者の血圧や血糖値などの検査数値や薬の処方履歴を見られるため、きめ細やかな診療や薬の処方ができるようになる。

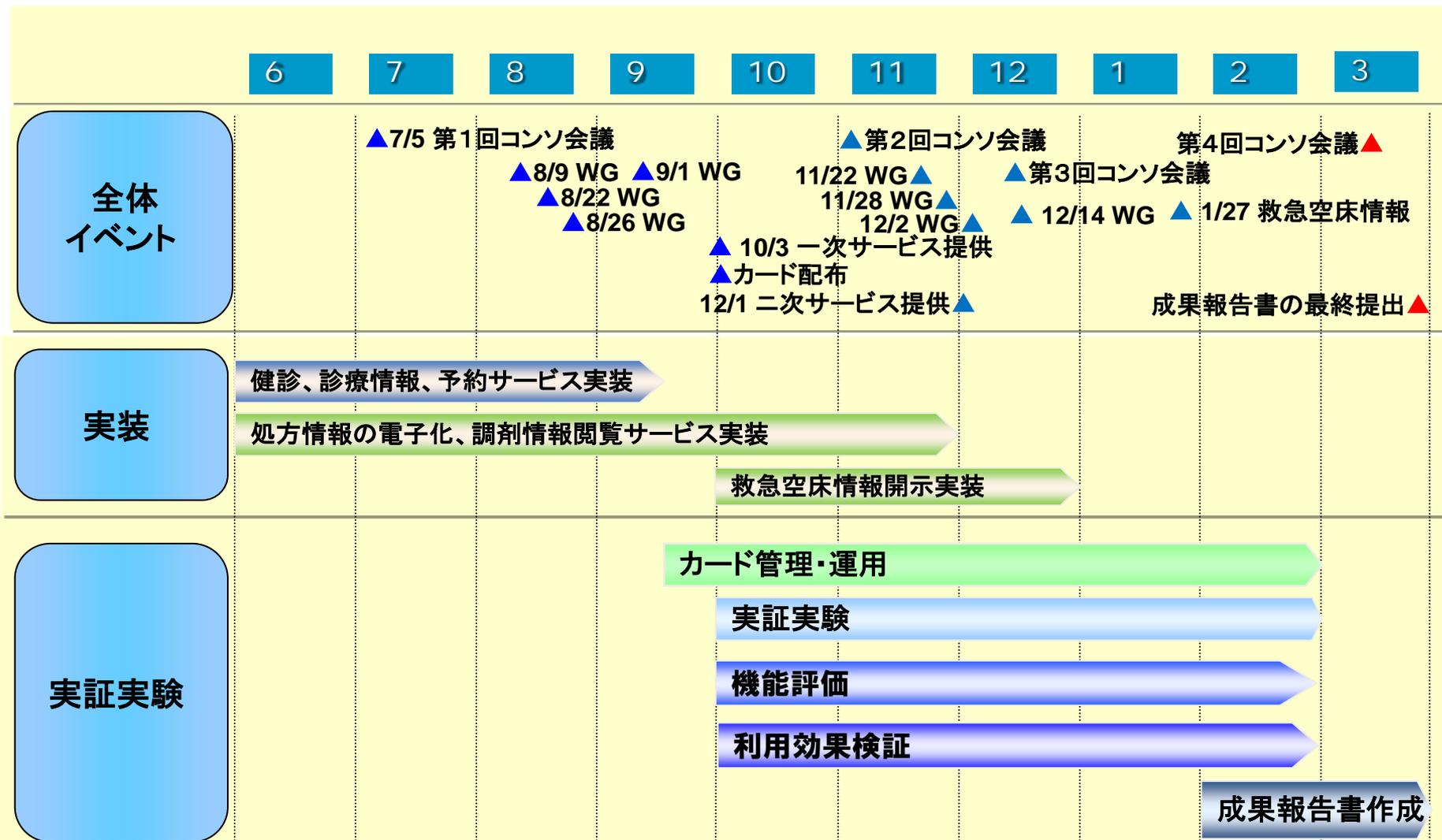
富士通はICカードや読み取り機器などのシステム部分を担当。実験期間は2012年2月末までとしているが、使用状況次第で、その後の継続活用も視野に入れているという。

出雲医師会や島根大学医学部付属病院などで構成する「しまね健康情報活用推進コンソーシアム」は出雲市や大田市で共通診察券を活用した健康情報活用基盤構築の実証実験を推進。10月上旬から医療機関や自宅から共通診察券を使って診療情報や健康診断情報を閲覧するサービスの実証事業を始めていた。

4. 実証における課題

No.	課題	対応
1	<p>【第2回委員会でのご指摘事項】</p> <p>医療・健康情報に管理において「保存期間は特に制限していません」と回答しているが、日本版EHRの主旨に合わせ、患者個人が服薬情報などを参照するためPHRの普及させることを考えていないと推測される。本実証実験での参加同意の取り方含め、状況について説明をお願いしたい。</p>	<p>患者様の本実証実験への参加においては、「実証実験終了後の個人情報の扱いについて、整備したサービスを継続可能であれば引き続き、継続できない場合、実証実験終了後に削除します。ただし、終了後にサービスを再度提供する場合は、削除せず別途定めるものとします。」を条件として同意を取っております。</p> <p>しかし、日本版EHRの主旨に合わせ、PHRの普及・定着を考えれば、患者の意思によりそのデータが管理される必要であると考えます。</p> <p>データの管理およびそのための同意の取り方について、今後のコンソーシアム会議で検討を行い、今後の島根における地域医療事業のインプットとしたいと思っております。</p>
2	<p>大田地域では、参加メリットを大きくするためにも中核病院の電子カルテ情報の出力が望まれます。</p>	<p>将来的な想定として、大田市立病院の電子カルテ情報の出力を行うものとして、事前調査を行っております。</p>
3	<p>処方情報の電子化では、通常行われているFAXでの薬局への処方箋の送信を、システム的に行えることが望まれます。</p>	<p>将来的な想定としては、システム的に薬局へ送信できること、および、患者自身が直接操作できることで、患者・医療機関・薬局ともメリットが考えられます。</p>
4	<p>現行運用では、調剤での変更情報は紙等で情報が集まるが、次回診察時にわからない。処方情報の電子化で収集できる変更情報を活かすことが望まれます。</p>	<p>将来的な想定として、変更情報を電子カルテ側に送り、次回診察時に参照できる仕組みにより、患者、医療機関、薬局ともメリットが考えられます。</p>
5	<p>処方情報の電子化の付帯情報送信において、電子カルテの禁忌・アレルギーメモ項目は、医療機関によってはそれ以外の患者特有の情報入力を行っており、薬局には見せたくない情報があります。</p>	<p>電子カルテの禁忌・アレルギーメモ項目について、送信の選択ができるように対応して、運用して頂いております。</p>

5. 今後のスケジュール

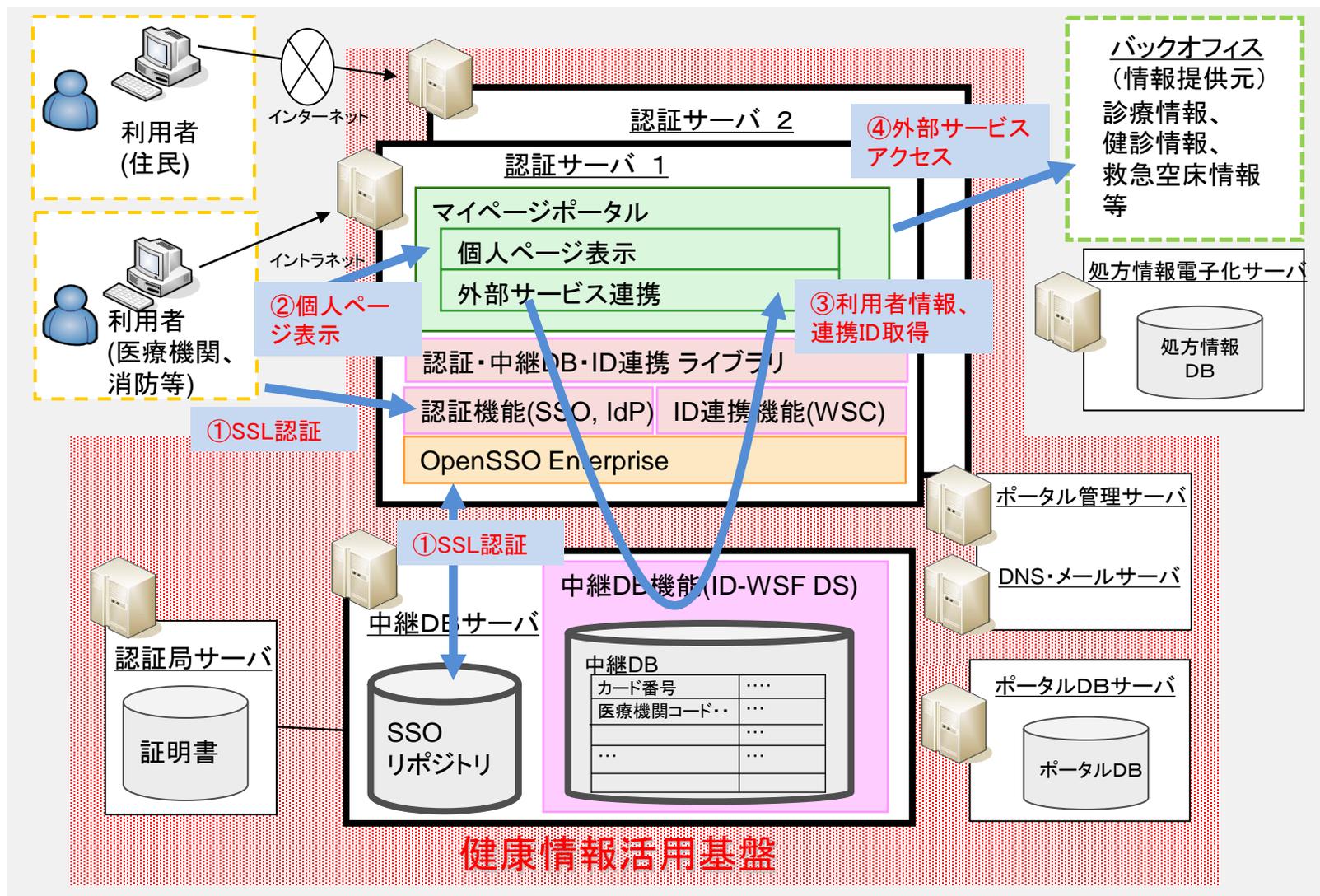


【基盤】: 認証、中継DB

【サービス】: 診療予約・診療情報閲覧・健診情報閲覧(10月～)、

処方情報の電子化(12月～)、調剤情報閲覧(12月～)、救急空床情報開示(1月～)

(参考) 全体システム構成



- ◇ ICカード内の認証用電子証明書によりSSL認証
- ◇ 中継DBサーバにより利用者の情報や情報保有機関の外部サービスの連携ID等の情報取得
- ◇ 中継DBや連携する外部機関の情報へのシングルサインオンの実現方式としてSAML2.0を採用システム構築